

令和 2 年 6 月 2 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2015～2019

課題番号：15H05065

研究課題名（和文）看護職の生涯にわたるキャリア発達を支援する体系的研修プログラムの構築

研究課題名（英文）Development of a systematic education program to support life-long career development for nurses

研究代表者

和住 淑子（WAZUMI, Yoshiko）

千葉大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：80282458

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、少子高齢社会における看護基礎教育終了後の看護職の研修ニーズを踏まえ、看護職のキャリア発達を体系的に支援できる研修プログラムを構築することである。

看護職の自律的なキャリア発達を支援するためには、範例（パラダイムケース）を用いたリフレクションが有効であることが明らかになった。そこで、実際の範例を収集し、それを活用しながら看護職のリフレクションを体系的に支援する「看護実践における範例（パラダイムケース）の集積・活用システム」をweb上に構築した。さらに、看護基礎教育と看護継続教育の双方において活用可能な、患者アセスメント能力の修得を目指した研修用教材コンテンツを構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究において構築する研修プログラムは、看護職の生涯にわたるキャリア発達の視点から体系づけられた研修プログラムである、という点に最大の特色がある。

本研究において構築された研修プログラムの提供によって、看護本来の役割発揮に向けた看護職の能力開発を、長期的展望を持って支援できるようになる。このことによって、施設の枠を超えて少子高齢社会における看護職固有の貢献ができる人材の育成が可能となる。これは、今日の国家的課題である少子高齢社会への対応における、看護学固有の貢献である、という点で意義がある。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop a education program that can support career development for nurses systematically, considering the education needs for nurses after the completion of fundamental nursing education in an aging society with a low birthrate.

It became clear that reflection using paradigm cases is effective to support autonomous career development for nurses. Therefore, we have developed the “collection and utilization system of paradigm cases in nursing practice” on the web that systematically supports reflection for nurses by collecting actual paradigm cases and using them. Furthermore, we have also developed educational contents for education that can be used in both fundamental and continuing nursing education in aiming to acquire patient assessment abilities.

研究分野：看護行政・政策

キーワード：看護学 看護管理学 看護継続教育 キャリア発達 範例（パラダイムケース）

1. 研究開始当初の背景

平成26年度の「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」の成立によって、本格的な少子高齢社会への我が国の対応の方向性が明らかとなった。そこには病床の機能分化や、医療と介護の連携によって、効率的で質の高い医療提供体制と地域包括ケアシステムを構築していくことが謳われている。これに伴い、病床は高度急性期、急性期、回復期、慢性期等に機能分化し、在宅医療、介護との連携が強く求められるようになるなど、保健医療の現場は激変しつつある。近代看護の祖といわれる F. Nightingale が、「病院というものは、文明の発達におけるひとつの中間段階にすぎない」(1873、『病人の看護と健康を守る看護』)と卓見しているように、医療機関中心ではなく、医療、介護を受ける人々を中心に、地域における様々なサービスが連携する方向への変化は、人々の健康的な生活を支援する実践の科学である看護学の立場から考えても、よりその人らしい生活の追求に向かう望ましい動きであるといえよう。

その中で、チーム医療のキーパーソンとして位置づけられた看護職は、効率的な病床コントロールと患者にとって安心・安全なケアの両立、診療報酬上の加算を得るための情報管理や有効な人員配置、多職種連携、地域連携など次々と突きつけられる課題への対応に追われている。激変する地域保健医療体制に即して、看護本来の役割を發揮し人々の健康的な生活を支え続けていくためには、これまでも増して、患者の生活背景や今後の生活の見通しなど、よりライフサイクルに即したものの見方、考え方が要求される。それに加えて、病院経営、医療安全管理、現任教育、管理運営、多職種連携、地域連携、情報発信や交渉術など、これまでになく多岐にわたる広範な知識を看護の視点で統合し応用する能力が求められている。

平成21年度に「保健師助産師看護師法」「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の改正が行われ、看護職員研修が法的に位置づけられたことにより、前述のようなさまざまな知識を獲得するための研修が施設内外で行われるようになってきている。しかし、十分な研修を提供できる施設は、高度急性期医療を担う比較的規模の大きな施設に限られており、地域包括ケアシステムを担うさまざまな場で働くすべての看護職に、その能力発揮に向けた十分な研修機会が提供されているとは言い難い。また、職能団体や学術団体等が提供する研修はトピックを絞った単発的なものになりやすく、個々の看護職が直面している課題や研修ニーズの把握、看護職の生涯にわたるキャリア発達の視点を踏まえた研修後の支援体制は十分ではない。

以上より、すべての看護職が、その専門性を活かしながら少子高齢社会に生きる人々の健康的な生活に貢献していくためには、看護職の生涯にわたるキャリア発達の視点から個々の看護職の直面している課題や研修ニーズをとらえ、所属施設の枠を越えて交流しながら、長期的展望を持って、看護本来の役割発揮に向けた能力開発を支援できるような体系的研修プログラムが必要である。本研究は、このような着想のもと、全国の看護職を支援する研修プログラムを構築することを目指して計画したものである。

2. 研究の目的

本研究は、5年間の研究期間内に、看護職の生涯にわたるキャリア発達の視点から個々の看護職が直面している課題や研修ニーズをとらえ、看護本来の役割発揮に向けた能力開発を、施設の枠を越えて、長期的展望を持って支援することを目指し、以下を明らかにする。

- (1)少子高齢社会における看護基礎教育終了後の看護職のキャリアパターンの多様性
- (2)看護職が看護本来の働きを發揮しつつ少子高齢社会に貢献していくための生涯にわたるキャリア発達の視点からみた、看護職が直面している課題や研修ニーズ
- (3)看護本来の役割発揮に向けた能力開発を、長期的展望を持って支援できるような体系的研修プログラム
- (4)個々の看護職が所属施設の枠を越えて交流しながら能力開発できるような研修提供システム

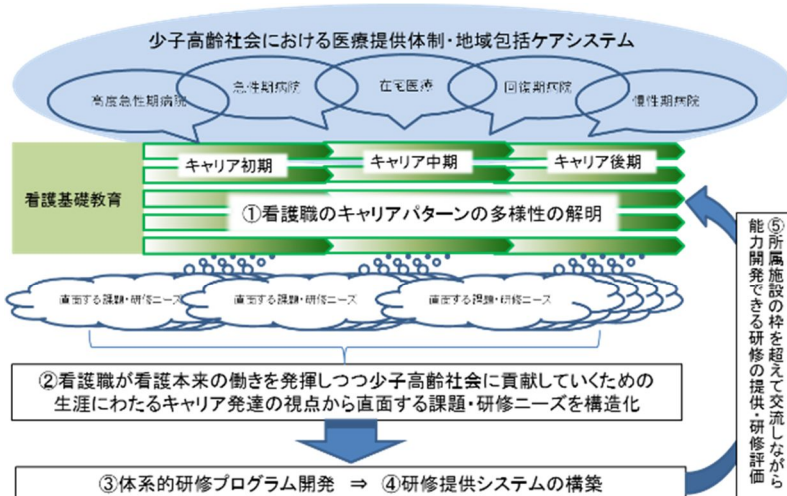


図:看護職の生涯にわたるキャリア発達を支援する体系的研修プログラムの構築

3. 研究の方法

- (1) 少子高齢社会における看護基礎教育終了後の看護職のキャリアパターンの多様性を解明する。
- (2) (1)で解明した看護職の各キャリアパターンにおいて、看護職が直面している課題や研修ニーズを、看護職が看護本来の働きを発揮しつつ少子高齢社会に貢献していくための生涯にわたるキャリア発達の視点から解明する。
- (3) (1)(2)の結果に基づき、看護職の生涯にわたるキャリア発達を支援する体系的研修プログラムを開発する。
- (4) (3)で開発した体系的研修プログラムを施設の枠を超えて提供するシステムを構築する。

4. 研究成果

(1) 平成27～28年度は、少子高齢社会における看護基礎教育終了後の看護職のキャリアパターンの多様性を解明し、看護職の各キャリアパターンにおいて、看護職が直面している課題や研修ニーズを分析した。

その結果、看護職のキャリアパターンの多様性は、キャリア初期、中期、後期という時間軸と、地域における健康問題や医療ニーズ、保健医療機関の置かれた状況のちがいによって生み出されていることがわかった。

以上より、看護職のキャリアパターンの多様性は、キャリア初期、中期、後期という時間軸と、地域における健康問題や医療ニーズ、保健医療機関の置かれた状況のちがいによって生み出されていることが解明できた。

(2) 平成29年度の研究では、看護職の自律的なキャリア発達を支援するためには、地域における健康問題や医療ニーズ、保健医療機関の置かれた状況、キャリア初期、中期、後期という時間軸、の3側面からの情報を含む看護職の範例(パラダイムケース)を用いたリフレクションが有効であることが明らかになった。さらに、体系的な研修プログラムを構築するためには、これらの範例(パラダイムケース)を教材化し、看護学の基本構造を踏まえて体系化する必要があることが明らかになった。

(3) 平成30年度の研究では、これらの成果に基づき、激変する保健医療の現場の現状に即して看護本来の役割発揮を促進する範例の収集を行った。さらに、収集した範例の特徴を踏まえ、看護職の生涯にわたるキャリア発達を支援するより効果的な研修提供システムとして、範例集積システム、範例活用システムの2つのシステムから成る看護実践における範例(パラダイムケース)の集積・活用システムを考案した。さらにシステムに必要な各機能の実装可能性を検討するため、システム開発の専門的見地からシステム仕様に関する提案を得た。

(4) 令和元年度は、実際に、範例の収集を行い、看護学の基本構造を踏まえて体系化し、範例集積システム、範例活用システムの2つのシステムから成る「看護実践における範例(パラダイムケース)の集積・活用システム」を構築した。完成したwebシステムのトップページを下図に示す。さらに、看護職の生涯にわたるキャリア発達という視点から、看護基礎教育と看護継続教育の双方において活用可能な、患者アセスメント能力の修得を目指した研修用教材コンテンツを構築した。



図：「看護実践における範例(パラダイムケース)の集積・活用システム」トップページ

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Toshie Yamamoto, Yoshiko Wazumi, Shinobu Saito, Fusako Kawabe, Shu Chun Chien, Hajime Toda, Hitomi Yamagishi, Takashi Maeda, Chika Matsuda, Yuka Kanai
2. 発表標題 The Background and Theorization Process of the Japanese Nursing Theorist- Usui Hiroko 's "Scientific Nursing Theory" in Japanese as [KAGAKUTEKI KANNGORONN]
3. 学会等名 NETNEP2018 - 7th International Nurse Education Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川合 いずみ, 和住 淑子, 多田 則子
2. 発表標題 患者の全体性を時間軸でとらえ自律的判断のできる救急病棟スタッフ看護師の育成
3. 学会等名 第22回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 箭内博子, 和住淑子, 錢淑君
2. 発表標題 地域で生きる患者を支える退院支援の構築 - 高度急性期病院における病棟看護師の退院支援能力の育成を通して -
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 和住淑子
2. 発表標題 「病気とは回復過程である」がもたらす世界の見方の転換とその共有 - 『看護覚え書』と『思索への示唆』の記述を手がかりとして -
3. 学会等名 ナイチンゲール研究学会第39回研究懇談会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshiko Wazumi, Toshie Yamamoto, Shu Chun Chien
2. 発表標題 "Analogy" as Methodology in Solving Modern Day Problems By Learning from F. Nightingale's Work
3. 学会等名 28th International Nursing Research Congress of Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 和住淑子, 斉藤しのぶ
2. 発表標題 看護の大学教育進展の過程に見る「看護学の体系性」の自覚とその「社会的認知」の変化
3. 学会等名 日本看護学教育学会第27回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河部房子, 和住淑子, 錢淑君
2. 発表標題 自己の看護実践体験に対する看護学生のリフレクシヨンの特徴
3. 学会等名 日本看護学教育学会第27回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 和住淑子
2. 発表標題 ナイチンゲールの理論形成と英国産業革命
3. 学会等名 ナイチンゲール研究学会第38回研究懇談会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shu Chun Chien, Yoshiko Wazumi, Toshie Yamamoto, et al.
2. 発表標題 Program for promoting self-management of health status for nursing students based on oriental medical concepts
3. 学会等名 Creating Healthy Work Environments- The conference of Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 黒田久美子, 和住淑子, 他
2. 発表標題 新人看護師教育責任者支援プログラムの開発-自施設の評価をふまえた研修企画能力向上への支援-
3. 学会等名 第20回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	河部 房子 (Kawabe Fusako) (00251843)	千葉県立保健医療大学・健康科学部・教授 (22501)	
研究分担者	寺島 喜代子 (Terashima Kiyoko) (20180078)	福井県立大学・看護福祉学部・教授 (23401)	
研究分担者	斉藤 しのぶ (Saito Shinobu) (90292680)	千葉大学・大学院看護学研究科・准教授 (12501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	錢 淑君 (Chien Shu Chun) (50438321)	千葉大学・大学院看護学研究科・准教授 (12501)	
研究分担者	山本 利江 (Yamamoto Toshie) (70160926)	千葉大学・大学院看護学研究科・教授 (12501)	
研究分担者	黒田 久美子 (Kuroda Kumiko) (20241979)	千葉大学・大学院看護学研究科・准教授 (12501)	
研究分担者	吉田 澄恵（吉田澄恵） (Yoshida Sumie) (10279630)	千葉大学・大学院看護学研究科・特任准教授 (12501)	